

浜を支える漁協女性部活動

—第53回岩手県下漁協女性部郡別研修会に参加して—

研究員 亀岡 敏平

漁村における有意な取組みとして、漁村女性(主に男性漁業者の配偶者、女性漁業者)の活動に注目が集まるようになって久しい^(注1)。そのような漁村女性による活動の多くは、沿岸漁協の女性部を基盤として行われている^(注2)。今回は、「第53回岩手県下漁協女性部郡別研修会」(2016年1月)に参加して知ることができた岩手県の女性部活動について紹介したい。

1 女性部による女性部のための研修会

郡別研修会は、女性部活動の活性化、女性部員同士の交流等を目的として年1回行われており、漁協女性部の県段階連合組織である岩手県漁協女性部連絡協議会が主催である(同協議会の事務局は岩手県信漁連に置かれている)。同研修会は、岩手県沿岸を北から九戸、下閉伊、上閉伊、気仙の4地区に分け、それぞれ1日ずつかけて実施されており、各地区とも100~200人程度の女性部員が参加する規模の大きな研修会となっている。

研修会の内容は、外部講師による講演と各地区から選ばれた女性部の活動実績発表であり、合間には女性部員による歌やダンスといったアトラクションの時間も設けられている。運営から構成に至るまで、女性部による女性部のためのものとして実施されている研修会だと言えよう。また、今年度は、LGL(ライフガードレディース)団体委嘱式(後述)もプログラムに盛り込まれていた。

今年で53回を数える伝統ある研修会であるが、東日本大震災による被災後3年間は開催

が見送られた。また、再開された昨年度は活動実績発表が行われなかったため、研修会の本格的な再開は今年度からとなった。組織基盤を脅かすほどの甚大な被害から5年間で本格的な再開に至ることができた背景には、女性部の屈強さ、部員間の強い連帯感があるように感じられる。

2 多様かつ主体的な活動

—種市漁協川尻浜女性部の場合—

研修会では、女性部による活動実績発表として、各地区の女性部が日常的に実践している活動内容の紹介がなされた。ここでは、特に県北の洋野町にある種市漁協川尻浜女性部の活動を紹介する。

川尻浜女性部は、震災後の再編を経て、現在は56人からなる組織として活動している。主な活動内容は、①わかしお石鹸の普及、②海浜清掃、③殻付きウニの集荷・選別である。

①は、「きれいな海は浜の女性から」をコンセプトに、合成洗剤ではなく、天然油脂を使った「わかしお石鹸」の普及を目指す活動である。わかしお石鹸は、海洋環境に悪影響を与えないだけでなく、分解されて微生物のえさになるとされており、漁村の女性が日常的に行うことができる浜への貢献活動としてその使用普及が目指されている。女性部では、このわかしお石鹸の販売活動を行っており、関係商品の販売数を119(14年)から379(15年)に増やすなど着実に実績を上げている。

②は、海浜環境の維持を目的とした活動で

あり、年6～7回地元の川尻浜の清掃活動を行っている。

③は、川尻浜の主要な魚種の一つである殻付きウニの出荷のための陸上作業であり、女性部では、毎回2人体制で選別作業に従事している。漁業生産を下支えする重要な作業であり、女性部活動が地域漁業において不可欠なものであることを物語る活動であると言える。また、同地区では7月に「たねいちウニ祭り」が開催されており、その際も女性部が販売等で積極的に活躍している。

川尻浜女性部の活動実績発表からは、女性部全員で達成感を共有し合い、主体性を持って取り組んでいる様子が強く感じられた。今後は、未利用海藻の活用、浜料理の提案といった活動にも新たにに取り組む考えがあるとのことであり、女性部活動の一層の発展が期待される場所である。

3 海上保安部との協力関係

—ライフジャケットの着用推進に貢献—

今年度の研修会では、例年にはないプログラムとして、全地区においてLGL団体委嘱式が行われた。これは、地区所管の海上保安部が、女性部にライフガードレディース(ライフジャケットの着用推進員)の委嘱を行うというものである。

以前から、海上保安部の委嘱を受ける形で、

女性部は漁業者のライフジャケット着用推進に取り組んできた経緯がある。しかし、これまでの委嘱先は女性部員個人で、しかも全員ではなかったために、県下の全沿岸域をもれなく網羅する体制にはなっていないという問題があった。そこで今回からは、組織としての女性部を委嘱先とすることで、普及体制の整備が図られることとなった。委嘱式では、各女性部の代表者が海上保安部からライフジャケットと委嘱状を受け取る形で委嘱が行われた。

洋上での安全確保に向けて、漁協と各地の海上保安部が密接な協力関係を構築していることは広く知られているが、その重要な主体となっているのが漁協女性部であるという点は、見逃してはならない事実であろう。また、震災からの復興の進展と併せて、組織としての女性部が新たな委嘱先となり、推進体制が強化されたことも重要である。

4 活動の継続に向けて

以上、多様な内容を有し、主体的に行われている岩手県下の漁協女性部活動の一端を見てきた。岩手県においてみられる女性部活動は、しばしば取り上げられる起業事例のような派手さや経済的存在感のあるものではない。しかし、浜々の女性たちが協力し合いながら日常的に無理なく着実に行うことができるものであるからこそ、地域に根差して力強く持続する活動になっているのではないだろうか。組合活動の基盤の一つとして重要な地位を占める女性部活動が漁村においてどのような機能を果たすものであるのか、岩手県に限らず全国の事例に引き続き注目していきたい。

(かめおか こうへい)

(注1) 代表的な研究として、中道仁美編著(2008)『女性からみる日本の漁業と漁村』農林統計出版、関いずみ(2010)「持続する漁村を目指して—地域活性化の起爆剤としての漁村女性の起業活動—」『水産振興』44巻2号。

(注2) 15年4月1日時点で、全国には680の漁協女性部があり、部員数は40,102人となっている(全国漁業協同組合連合会HP参照)。